

# 令和4年度第1回地域福祉専門部会 意見票のまとめ

参考資料5

(質問の内容が類似するものについてはまとめています)

## (1)重層的支援体制整備事業の実施に向けた取り組みについて

番号	ご意見	区の考え方
1	困りごとの相談窓口について、電話以外のチャンネルも増えるとよい。若い世代は電話よりも携帯(スマホ)から気軽にアクセスできる入口があると、より相談しやすくなるのではないか。	さまざまなニーズに応じられるよう、多様な相談手段のあり方を検討してまいります。
2	中央区の公式LINEのリッチメニューに相談の入口があると、地域福祉コーディネーターや民生委員につながるのも早いのではないか。	多様な相談の入口を用意するなど、相談しやすい体制整備に努めてまいります。
3	福祉総合相談窓口の早期の開設を望む。 どこに連絡してよいかわからない相談者がいるのは事実であり、身近な民生委員に連絡して来るともある一方、民生委員には相談しづらいという方もいる。相談を受けた際には内容に応じて関係機関につないでいるが、電話1本でどのような相談にも応じてくれる相談窓口の設置により、問題の早期解決を目指してほしい。	ご意見を参考に、さまざまな支援ニーズに対応できるよう、窓口の体制及び関係機関へのつなぎや連携のあり方について検討してまいります。
4	全ての機関が連携して取り組むのがとても良いです。	今後も関係機関との連携のもと、重層的支援体制整備事業の実施に向け取り組んでまいります。
5	会議中に“相談窓口が多い”との意見が出ていたが、既存の組織を活用して行くとすると、その点が気になる点である。利用者の立場に立つと、一つの窓口あるいは一つの場所で受け止めてくれる場所が欲しいという意見だったのかと思う。 既存の窓口が各々スムーズに連携が取れるシステムの構築がカギとなるのではないか。	会議でのご意見は相談者の立場からすると、様々な相談窓口があることはかえって不便であるとのことでした。 既存の相談窓口がスムーズに連携するシステムは、重層的な支援体制の構築に向けても欠かせない事項であると考えています。既存の相談窓口の強み、これまで築き上げてきたネットワークを基盤に、更なる連携体制の強化に向けて取り組んでまいります。

## (2)地域福祉ワークショップ実施報告と今後の取り組みについて

番号	ご意見	区の考え方
1	地域住民の参加をもう少し増やしていくのであれば、実施の曜日設定や夜間開催など検討の余地がある。事後アンケートなどで、参加しやすい曜日や時間帯を聞く項目があっても良いかと思う。	ご意見を踏まえ、今後の実施体制を検討してまいります。
2	今回も民生委員が多かったようだが、1テーブル1名ぐらいの人数にするのはいかがか。 若くして地域で活躍されている方もいると思うので、そうした方に参加していただき、新しい声を反映してもらいたい。	今回のワークショップには、大勢の民生委員に参加していただきました。今後は民生委員以外の方にも参加してもらえよう、内容の充実と周知のあり方について検討してまいります。
3	子ども食堂の取り組みを考えてみたらどうか。	今後のテーマ設定の参考とさせていただきます。

4	地域住民の参加が増えるよう、引き続き工夫した対応をお願いしたい。	多様な立場の方にご参加いただけるよう、内容や周知方法など検討してまいります。
5	<p>議論したことの具体化や対策までつながっていない点に対して、KPT式のワークショップにしてみてもどうか。会の初めに前年に出た意見を踏まえ、どのような策や対応があったのかのような成果があったのか発表していただき、ワークに入っていくのも一案かと思う。</p> <p>&lt;例&gt;  “Keep”：今ある、やっている活動のよいところ、うまくいっているところを挙げる  “Problem”：今ある課題や問題点を挙げてもらう  “Try”：上記Problemで挙げた課題についての対策・対応・解決策を検討してみる。</p>	参加者にとって有意義な時間となるよう、ワークショップの進め方については、講師とも相談しながら検討してまいります。

(3)地域での取り組み事例について

番号	ご意見	区の考え方
1	<p>地域活動の発信については、ぜひLINEやInstagramなどの活用を検討してほしい。東京の中心にある中央区でのデジタルデバイスを活用した情報発信には、意味があると思う。子育てサロンなどは若い親子が参加対象になることから、デジタル発信は先を見たと議論の中心にあって良いかと思う。</p> <p>中央区ホームページにも、InstagramやTwitterのリンクをつけて発信し、またこうした事業を専門会社へ委託して行うことも大事かと思う。</p>	<p>情報発信のあり方については、既存の情報発信媒体の活用をはじめ、その他の発信方法についても地域活動の情報発信に以前から取り組んでいる社協などと連携し、検討してまいります。</p>
2	<p>地域の見守り活動を20年近く行っているが、継続は力なりで、続けていくことが大事だと感じている。孤独死のない地域を目指していきたい。</p>	<p>活動を継続することは決して簡単な話ではなく、20年間の活動は確実に地域に根付いていると思います。区としても地域の皆さんと連携して、孤独死の防止に努めてまいります。</p>
3	<p>佃、月島、勝どき、豊海、晴海での懇談会を望みます。</p>	<p>今後の開催形態については、ご意見を踏まえ検討してまいります。</p>
4	<p>回覧などの配り物をポストに入れなくて、手渡しするように心がけています。</p>	<p>顔と顔を合わせる機会を設けることは、気づきあい、支えあう地域の実現に向けて欠かせない要素の一つといえます。手間はかかるかと思いますが、今後の継続を願っています。</p>
5	<p>京橋地域の民生委員の方の「思いを形にしようと思い、有志で立ち上げた」という言葉がとても印象に残っています。</p>	<p>様々な主体による地域の居場所が増えていくよう、区と社協でバックアップしてまいります。</p>

(4)令和4年度地域カルテの更新について

番号	ご意見	区の考え方
1	<p>年々見やすくわかりやすくしていただき、ありがとうございます。地域サロンなどのところに、今後は子ども食堂やNPOなども加えていただくことを検討していただけますと幸いです。</p>	<p>皆様の意見を踏まえ、内容の修正・追加を適宜検討してまいります。</p>

2	<p>地域活動の担い手が増えたことで、町会・自治会の活性化につながったのではないかと。地域カルテを通し様々な活動者の声や活動を見聞きできると良いと思う。</p>	<p>多様な活動、地域の声を反映した地域カルテとなるよう、今後も作成してまいります。</p>
---	--	--

(5)その他

番号	ご意見	区の考え方
1	<p>どんな方でも救われる行政であるべきと思う。その原点は人の生命を守ることを忘れないで、私も活動したい。</p>	<p>ご指摘のとおり、人の生命を守ることは全ての支援に欠かせない視点であり、今後もこの視点を忘れずに取り組んでまいります。</p>
2	<p>ヤングケアラーの問題について、部会で考えてみたらどうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、今後の議題の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>参加者の意見にもあったが、情報アクセシビリティの工夫が必要である。ハンディがある人もない人も、どのような環境の人も、情報へのアクセスが平等になることが望ましい。</p>	<p>既存の情報媒体の良さも活かしながら、新たな情報媒体の活用及び周知の工夫により、デジタルデバイドの解消に努めてまいります。</p>
4	<p>世代により情報へのアクセス方法は異なると思うので、区民が欲しいと思う情報やサポート機関につながりやすい体制を構築してほしい。</p>	<p>既存の情報媒体と新たな情報媒体の活用も含め、体制の構築に努めてまいります。</p>
5	<p>地域福祉ワークショップの取り組みに関して、ワークショップで抽出された地域生活課題の解決に向けた取り組みの必要性が話題にあがっていた。ワークショップで抽出された課題解決まで視野に入れるのであれば、現在の実施単位（京橋、日本橋、月島の3地域）では大きい（広い）と感じる。「我が事」として課題の解決に取り組むとなると、地域住民にとって身近な単位である町会・自治会や居住するマンションを単位としたほうが、具体的な取り組みにつながっていくのではないかと。 また、重層的支援体制整備事業の実施にあたり「地域づくり」という観点からも、日常生活圏域とされる3地域より、地域住民にとってより身近な単位の方が取り組みやすい面があると思う。町会・自治会単位では小さすぎるかもしれないが、小学校の学区単位ぐらいで考えられると、地域住民の主体的な取り組みも増えていくのではないかと。</p>	<p>地域福祉ワークショップの今後の開催形態については、ご意見を踏まえ検討してまいります。 重層的支援体制整備事業の実施にあたっては、町会・自治会、身近な圏域での地域活動がより活性化するよう支援してまいります。</p>